

◇2019 年度実施の海外教育旅行の実態とまとめ（中・高）〈抜粋〉◇

この調査は、2019（平成 31/令和元）年度に実施された中学校・高等学校の教育旅行に関するものである。

なお、調査は全国の国立・公立・私立等の中学校・高等学校を対象とし、下表の調査校を抽出し回答を依頼した。

設置者名	国立	公立	私立等	合計
全国校数	85	12,921	2,103	15,109
抽出校数	85	3,936	2,103	6,124
回答校数	23	1,467	622	2,112
回答率%	27.1%	37.3%	29.6%	34.5%

※回答率は、抽出校数に対する回答校数の割合

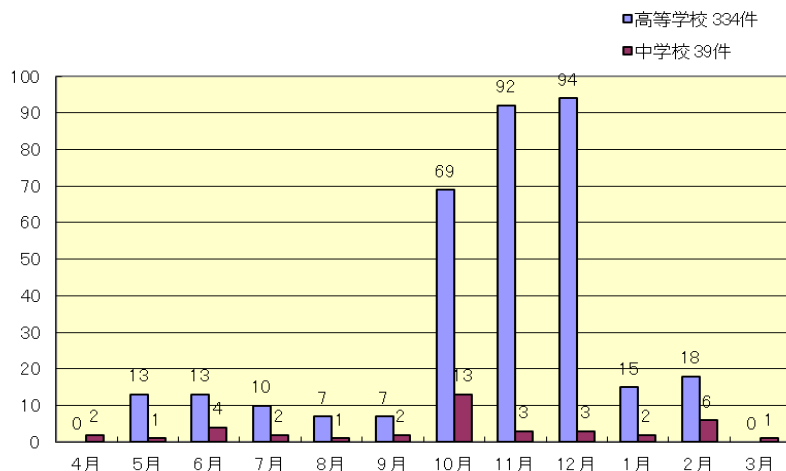
調査項目は次の通りである。

- (1) 行事種別 (2) 参加形態 (3) 実施学年 (4) 出発月 (5) 現地泊数
- (6) 参加生徒数 (7) 引率教員数 (8) 訪問国・地域名 (9) 宿泊都市 (10) 訪問都市
- (11) 生徒一人当たり旅行費用 (12) 学校間交流の具体的内容
- (13) 海外教育旅行実施に当たっての課題や問題点

ここではその一部を抜粋して紹介する。なお詳細については「教育旅行年報データブック 2020」（発売中）をご覧ください。

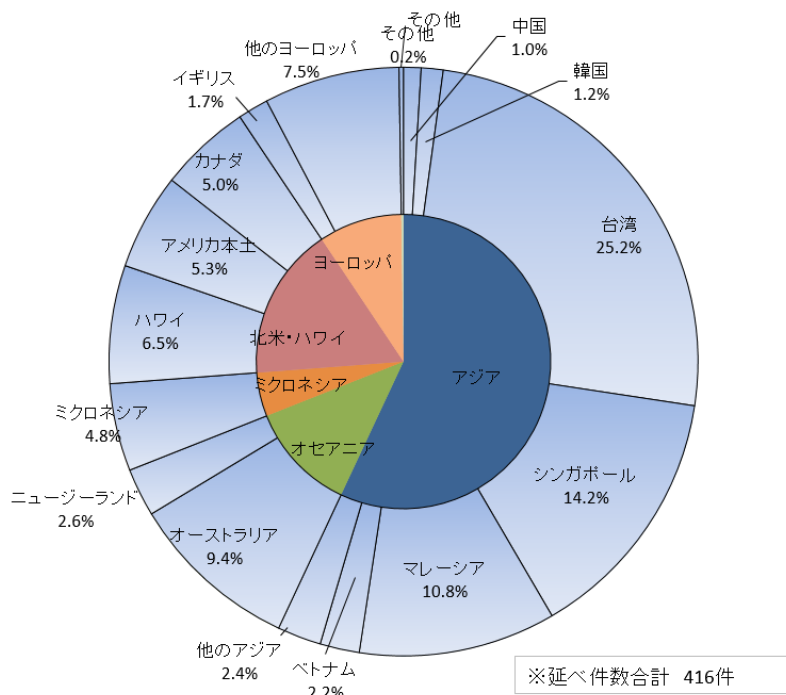
1. 海外修学旅行の実施月（件数）

実施のほとんどが私立校である中学校は、時期が分散している。高等学校では 76.3%が 10 月～12 月での実施となり、昨年（65.1%）以上に集中したが、これもコロナの影響で、3 学期 2 月中旬以降に実施予定だった旅行の中止の影響と考えられる。



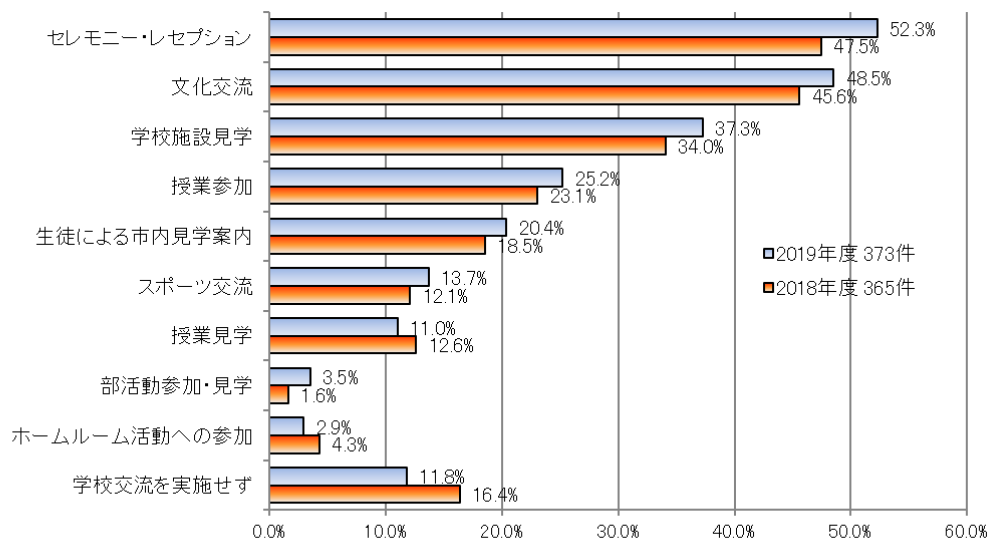
※ 1 修学旅行団体が連続する複数月に出発が分かるとの回答があり、その場合はダブルカウントしている。

2. 海外修学旅行の訪問国・地域別割合（件数比）



エリア別件数シェアでは、中国・韓国・シンガポール・ベトナムなどの減少の結果、アジアのシェアが57.0%（前年 62.4%）と若干減少したが、全体的には大きくは変わっていない。

3. 海外修学旅行の学校間交流内容（複数回答）



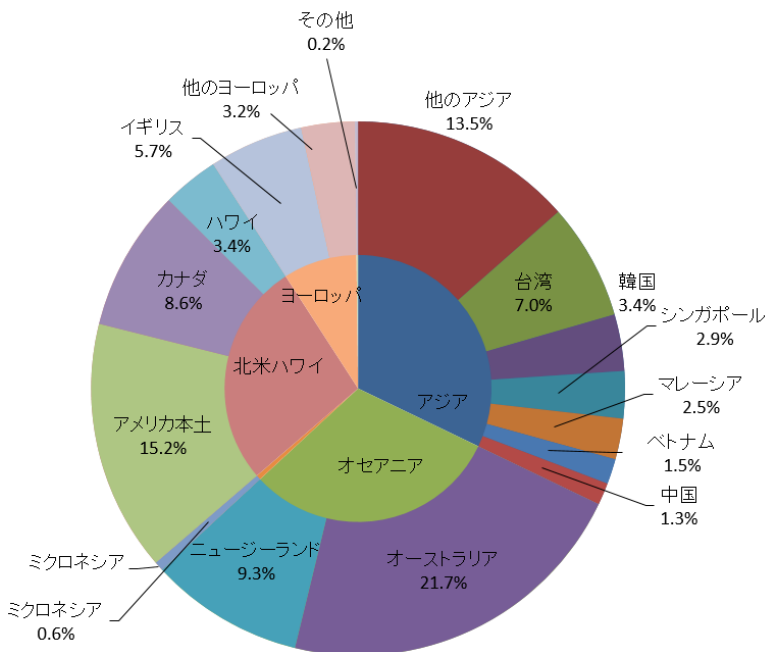
※海外修学旅行の実施件数を分母とした比率

海外修学旅行実施件数を分母とした比率で、概ね各項目とも実施率が前年より上がっている。異文化理解や外国語習得へのモチベーション付けといった学校交流の意義を実施校が重視し、努力していることの現れとも言えるのではないだろうか。

4. 修学旅行以外の海外教育旅行について

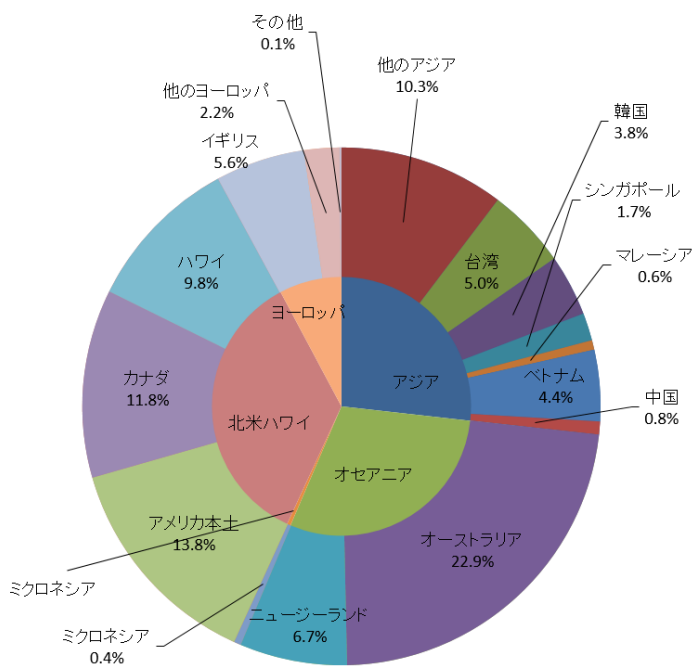
※1回の旅行で訪問国・地域が複数になる場合は、それぞれに件数、人数をカウントした。

修学旅行以外の海外教育旅行の訪問国・地域別割合（延べ件数比）（計 526 件）



修学旅行以外の海外教育旅行の訪問国・地域別割合（延べ人数比）

（計 12,211 人）



海外語学研修旅行の主な訪問都市

※訪問都市：宿泊都市と見学都市の合計

順位			都市	国・地域	今回 件数
前々回	前回	今回			
1	2	1	ブリスベン	オーストラリア	36
11	5	2	セブ	フィリピン	30
4	1	3	シドニー	オーストラリア	21
6	4	4	ロンドン	イギリス	19
2	7	5	オークランド	ニュージーランド	18
2	3	6	バンクーバー	カナダ	17
—	12	7	ロサンゼルス	アメリカ	16
10	5	8	ゴールドコースト	オーストラリア	12
8	—	9	ケアンズ	オーストラリア	11
—	—	10	ポートランド	アメリカ	10
—	—		ホノルル	アメリカ	
8	—	12	メルボルン	オーストラリア	9

全実施回答件数 880 件中、「語学研修」は 295 件と、「修学旅行」以外では一番多かったが、そのほとんどすべてが英語研修であるため、修学旅行に比して英語圏志向は強い。この結果として、グラフ-7 の延べ人数比では、オーストラリア、アメリカ本土、カナダ、ニュージーランド、イギリス、ハワイといった地域が多い。「他のアジア」は総件数 71 件中 39 件が、費用対効果の高い英語研修先として高い人気があるフィリピンだ。

語学研修旅行における訪問都市集計表でも、顔ぶれが例年と大きく変わらない中、フィリピンのセブが大きく順位を上げてきている。